

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	社会福祉法人京都ルーテル会
施設名	幼保連携型認定こども園 南丹のぞみ園
報告者（役職）	高塚 郁男（園長）
住所・連絡先	京都府南丹市園部町小山東町平成台 1-2 1
	☎ 0771-68-2255 E-mail nantannozomi@gmail.com

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

みんなで作ろうビオトープ大作戦！～メダカを育てよう！～

○主な助成備品

ビオトープ一式

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

＜自然との共存＞

広い敷地を利用し、ビオトープを作ること、子ども達に身近な自然の生態について知ってもらいたいことを目的とした。その中で、小川を作りメダカを育てることで、どのような生態であるかを知ったり、子ども達自ら調べたりできるようにすることで生態を知り、生きるためには様々な命をいただいていることを知り、食育に繋がったり、自然環境の保護に努めたりしたいと考えた。

2. 具体的な実施内容

- ・誰でも敷地内に入れるようにしたが、小川での水難事故の可能性も考え、職員が必ず見守るようにした。
- ・小川の水を循環させていると、自然と生き物が生息し、それに気づいた園児が捕まえ、クラスで飼育を始めたり、捕まえるために様々なものを使って試行錯誤したりしていた。
- ・3歳未満児も、3歳以上児が生き物を捕まえている様子をじっと見つめ真似をして、飼育ケースに入った虫をじっと見つめるようになった。
- ・小川の周りの草花にも興味を示し、摘んだり、その草花の陰に隠れている小さな虫にも興味をもち、探したりしていた。



- ・畑の場所を移動することになり、園児も一緒に土の移動をした。移動した畑に、野菜を植えたり、小川のまわりに、花の苗を植えたり、種を蒔いたりして、生長を楽しみに水やりを行った。

<畑の土移動>



<花の苗植え>



<花の種まき>



<水やり>



<どうやったら捕まえられるかな？>



＜生き物観察中＞



＜何か実がなってる？＞



＜お兄ちゃんの真似してみようかな＞



＜こんなところにいる！＞



3. その成果と評価

- ・ビオトープができたことで、様々な年齢が関わる場所の一つとなり、自然に異年齢で関わるできるようになった。
- ・5歳児が虫を捕まえたり、小川の生き物を捕まえたりする様子をじっと見ていた4歳児以下の子ども達は、同じように真似をしようとしたり、時には優しく教えてもらったりする姿も見られた。
- ・池の中に入って遊ぼうとしていた子ども達は、オタマジャクシがいることがわかった、じっと見つづけ、入ろうとせず、捕まえて家をつくろうとしていた。生き物を捕まえる時には、力加減が分からず、死なせてしまうこともあったが、繰り返すうちに力加減もわかるようになり、そっと触れるようになった。また、オタマジャクシは何を食べるのかを調べたり、試したりする姿が見られるようになった。
- ・ビオトープ完成と同時に、畑の移動も行った。一輪車に土を載せて運ぶ作業はとても大変だったが、子ども達が土を載せたり、一緒に運んだりして、ビオトープの近くに小さな畑もできた。そこには、季節に応じた野菜を植え、生長を楽しみにする姿が見られ、収穫する楽しさや、喜びを感じていた。

- ・自然に触れていく中で、自ら考え、試行錯誤することや、友達と一緒にどうすれば良いかを考えたりする場面が多くなってきた。また、家で保護者の方から得た知識も、園で披露するようになった。

<そーっと近づいて…>



<捕まえたオタマジャクシ>

<ここにもいる！そーっと…>



<水槽に入れて飼育することに！>



4. 今後の課題と展望

- ・引き続き、異年齢での関わりを大切にしながら、身近な動植物に触れたり、大切に扱ったりして、すべてのものに命があることに気付く、生活が送れるようにしていく。
- ・野菜の栽培を通して、生長過程を知り、世話をすることの大切さや、すべてのものに命があることを知り、その命を頂いていることに感謝しながら毎日を過ごせるようにする。
- ・命の大切さに気付くことで、友達も大切にし、心優しい子どもに育って欲しい。
- ・今回メダカを放流しようとした時に、ビオトープのモーターの調子が悪くなってしまい、メダカを育てることができなかったのもので、早急に修理し、飼育できる環境を整える。また、メダカだけでなく、様々な生き物が生息できるビオトープにしていきたい。

以上